

特定非営利活動法人オペレーション・ブレスリング・ジャパン (OBJ) は、災害、貧困、戦争などによって苦難に直面する人々に対し、イエス・キリストの精神に基づき、その苦しみを和らげるための支援活動を国内外で行っています。活動にあたっては、米国バージニア州に拠点を置く国際NGO「Operation Blessing International(OBI)」と理念を共にし、連携しています。OBJは設立以来、世界123以上の国と地域で、深刻な状況にある人々へ実践的な支援を届けてきました。

能登半島地震

P1

助けられる側から
地域のために助ける側へ

もし災害が起きたら

P2

日常の小さな関わりが
災害時に助けになる

BRの活動紹介

P3

専門家スタッフも常駐
心が落ち着く居場所づくり

全国で広がるOBJの支援

P4

支えられる社会を目指して
OBJの活動紹介

いま、地域の子ども見守りボランティアとして、子どもたちの登校時の交通安全をサポートしています。地域の子どもの成長を見ながら、いろんな方とのつながりを持てるのが楽しくて。昔は看護師として忙しく働いていて、自分の子どもの授業参観には一度も行けなかった。今は子どもから大人まで、地域の人と関わることで自分の喜びとなっています。これからも活動は続けたいね。

地震のあった日、とても天気がよかったです。子どもたちが帰ってくるので、準備を大方済ませて腰を下ろした時、ぐらりと揺れを感じました。「あら地震かね」と思った直後、ものすごく揺れた。外に出ると、みるみるうちに家の前に液状化した水が流れてきて、あつという間に玄関が水浸し。緊急放送で津波が来るというので、近くの一人暮らしのお宅に声をかけてから高台に向かいました。その日は落ち着ける居場所がなく、結局自宅に戻り、電気や水やトイレが使えない中、当日の夜を過ごしました。

OBJのように継続的に顔を見せて、声をかけてくださるのは嬉しいですね。気にかけてくれる人がいると安心するよ。日用品の支援もありがたかった。震災前と違って近所との関わりは薄くなっってしまったけど「あの人はどうしているかな」って、いまもお互いに気にかけています。仮設は距離も近くて確認しやすいのでつながりを持ちやすいね。いまは地域活動を通して、友人や周囲と助け合っている。過ごしているこうと思っています。

助けられる側から助ける側へ 震災で終の住み処を失いながら つながりが生んだ笑顔と現在地



堀田さん

能登半島地震で被災。石川県内灘町の自宅が全壊したため、現在は仮設住宅のトレーラーハウスに居住。地域活動に積極的にボランティア活動や社会福祉協議会主催のイベントにも参加。地域とのつながりを主体的に持ち続けている。「能登地震・OBJ継続支援の記録」Youtubeチャンネルでご覧いただけます。

自宅の修理には500万円ほどかかるかわかり、泣く泣く解体することに決めました。震災の少し前に、最後のリフォームを終えたばかりだったので、また大金をかけて修理するのは考えられなかったね。

4月下旬に仮設住宅のトレーラーハウスに入居してからは、圧倒感で息苦しくなったり、気分が悪くなったりして。頭痛や不眠が1年ほど続きました。自宅を手放すことは辛かったけど、今はもうふつきたね。考えても仕方ないし、現実をみて前向きに考えています。

OBJのように継続的に顔を

全国で広がる

OBJの支援



各地の活動の詳細はこちら

国内災害支援

災害で「日常」を失った人にいま、
本当に必要な支援を。



地震、豪雨など国内各地の災害支援を継続。単なる物資配布ではなく、知見と迅速な現地ヒアリングに基づき、その時に本当に必要な支援を実施。発災直後から復旧・生活再建期まで駐在し、炊き出し、コミュニティ支援、心のケアなど重層的な活動を行っています。

生活困窮支援

生活に行き詰まり
孤立した人に食事と「つながる安心」を。



『NPO法人いのちのパン』と協働で実施しているフードバンク。食事の提供だけでなく、小さな会話や見守りから安心を届け、傾聴やカウンセリング、物資支援を通して、社会とつながるきっかけづくりを行っています。

今、本当に必要な支援を、必要な人へ。

災害、生活困窮、こころの不調、地域のつながりづくりなど、人が抱える困難は状況によって変化します。OBJは現場の声を丁寧に聴き、その時にもっとも必要とされる支援を見極めて届けています。平時から災害時まで、人と人が支え合える社会を目指し、全国で活動しています。

こころの支援

不安や孤独を抱える人に
対話とケアを届ける支援。



心の不調や孤独は外から見えずらく、本人も助けを求めづらいもの。看護師、臨床心理士、精神保健福祉士と連携し、傾聴やカウンセリング、セミナーやワークショップなどを実施。災害支援の現場でも、喪失や不安による不調への対応が重要視されています。

OBJの活動全般

助けを必要とする人に今、もっとも必要な
支援を見極め、届ける。



これらの支援を通して、孤立や困難を抱える人に寄り添い、平時のつながりづくりから、災害時の緊急支援まで、人と人が支え合える社会を目指し活動しています。状況によって必要な支援は変化するため、その時にもっとも必要とされる支援を見極め、届けています。



災害時、頼れる人はいますか 孤立を防ぐ、つながりと気づき

誰の身にも起こる可能性がある災害。もし避難が必要になったら。もしライフラインが止まった。その時、あなたには頼れる人がいますか。

OBJが23年に実施した『ぼうさいこくたい』のアンケート(図1)から、頼れる存在が「家族」に偏っていることがわかりました。家族以外に頼れる人を、あなたは何人思い浮かべられるでしょう。

「防災」とは特別な活動ではなく「意識づける、心の準備をする」ことも大切です。高齢の一人暮らし、介護が必要な家族がいる、心身障害や不自由がある、小さな子どもがいるなど、普段から孤立しやすい環境の人は、災害時の支援から取り残されてしまうことがあります。OBJのとある災害支援時には、足が不自由な高齢男性が誰にも助けを求めることができず、たった一人で自宅の片付けをしていたところに出会いました。「存在を知る、気にかける、声をかける、あいさつをする、耳を傾ける」などの日常の小さな関わりが、お互いにとっての防災活動の小さな一歩になります。



平時から、困りごとと支援を行う「BlessingRoom(ブレッシングルーム)」

—2拠点で進むOBJの居場所づくり ブレッシングルーム(BR)から広がる、 顔の見えるつながり

OBJでは、災害時だけでなく平時から困りごとを支援につなげる入り口となり、地域でのつながりを増やすため、福島県南相馬市に『ブレッシングルーム(以下BR)南相馬』を、仙台市に『BR仙台』を開設しています。

東日本大震災による複合災害のあった南相馬では2017年にBRを開所。子どもたちの心のケアから始まり、その対象は次第に家族へ、地域コミュニティへと拡大し、支援の輪と地域のつながりが複層的に生まれています。緊急時にはBRが給水所として活用されるなど地域の支え合いの拠点として機能しています。

南相馬の支援から見えてきたのは、「孤立を防ぐ居場所」の重要性です。今年、OBJの本拠地である仙台にもBRを開所しました。『BR仙台』には、元路上生活者や生活困窮状態の方、一人暮らしの高齢者や精神的不調を抱える方など、事情があつて孤立に近い状態に置かれている方達の居場所となっています。生活困窮、健康不安、家族問題など複数の困難が重なっている場合が多く、相談する場所もない、人と話す機会も少ないという背景がありますが、看護師や臨床心理士などの専門職スタッフがくつろい

「ここに来ると安心する」



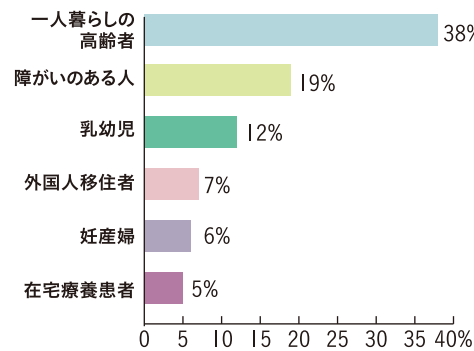
特別な支援ではなく、日常の関係

市民のつながる力×地域防災

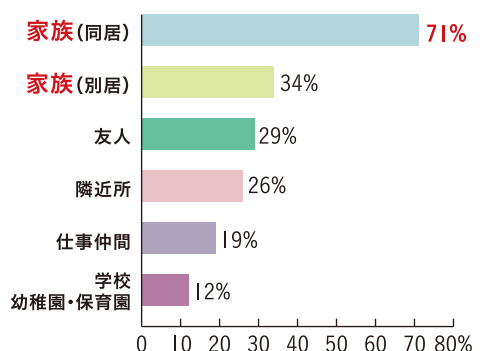
OBJは2023年、横浜で開催された『ぼうさいこくたい』にブース出展し、市民ソーシャルワーカー育成プロジェクトのワークショップや防災アンケートを実施。

※図1 ※複数回答／n=411

あなたの周りに 要配慮者の方はいますか？



災害時あなたは誰を 頼りますか？



いつか能登が「希望の象徴」となると信じて ～ここに「来られない人」への個別訪問～

能登で物資配布をする中でOBJと出会い、活動を共にするようになって半年が経ちます。私は40年以上教会で子ども会と家庭集会を続け、また障害を持つ人の働く場所を創出するためのパン屋を営んでいます。多くの方と関わってきましたが、私が気になるのは、集会やパン屋、物資配布の場に「来られない人たち」のこと。そういった方たちのところへは、できるだけこちらから出向きます。一軒一軒訪問し、顔を見て様子を聞きたい。

体のことでも物価の高いことでも何でもいからね。何気ない会話や交流でとても笑顔になってくれる人がいるんです。「来てもらえてよかった」と喜んでくれる人がいるから、ささやかですができるだけ訪問したいと思っています。

支援活動は私の生きがいであり、「生かされている」ことを実感できるライフワーク。いつか能登が希望の象徴となることを信じています。



話し手 松平さん
能登地震キリスト災害支援会
(金沢めぐみ教会)地域ボランティア



緊急時の拠点にもなった「BR南相馬」

だ雰囲気の中で傾聴します。悩みが吐露され、福祉や医療、生活支援や相談につながるきっかけとなっています。「ここに来ると安心できる、心が落ち着く居場所がある」と思える平時からのつながりづくりが、災害時の助け合いの基盤となることを、私たちは知っています。